

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 23

学校名・団体名	熊本市立長嶺小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地震による不安な心を運動遊びで吹き飛ばそう Part III

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 熊本地震後の子どもたちの心の状態について

平成28年4月の熊本地震から2年が経過したが、まだまだ学校や家庭生活に不安をもっている子どもがいる。熊本市教育委員会から派遣される「緊急対応カウンセラー」や「心のサポート相談員」の所には、次々と子どもたちが来室する状況が続いている。

そのような状況の中、平成28年度、平成29年度に引き続いて「地震による不安な心を運動遊びで吹き飛ばそう」を合言葉に、運動遊びが十分とは言えない子どもたちが、夢中になって運動遊びに取り組むようになることを願い、全職員で取り組むことにした。また、本校が「TOKYO2020 オリンピック・パラリンピック教育（オリパラ教育）実施校」でもあるため、子どもたちのスポーツに対する関心や意欲を高める機会に恵まれている。そのことは、子どもたちがもっている不安な心を吹き飛ばし、さらに自信をつけるきっかけにもなると考えた。昨年度に引き続き、「震災復興支援」と「オリパラ教育」の視点を関連させながら取り組むことにした。

2 昨年度に引き続き体力向上に向けての環境づくり

これまでの本校の子どもたちの体力の実態として、投力や走力の向上に課題があった。平成28年度の本助成により、投力向上のための「スカッドボーイ」と「ロープウェイスロー」を設置し、十分活用できた。また、走力向上のための「イレクターパイプ」を使った自作ハードル、巧緻性を高めるための「逆上がり補助板」、その他一輪車や竹馬の数も増やすことができ、運動が苦手な子どもでも各種の運動遊びに親しめるような環境づくりができた。平成29年度は、本助成により「リングゲーム」で活用できるホースを使った自作リングを作成し、また「イレクターパイプ」を使った自作サッカーゴールも追加でき、さらに運動遊びの環境が整ってきた。本年度は、本助成を活用して「大型デジタイマー」と「ストップウォッチ」を購入し、体育の授業や委員会活動での子どもたちの自主的な活動を促す環境整備を行った。

3 児童会体育委員会からの呼びかけ

これまで継続的に取り組んできた運動遊びを参考にしながら、本年度も、体育委員会から全校に提案できるように準備を進めた。また、昨年、熊本市わくわくチャレンジ長なわとびフェスタで「奨励賞」を受賞したこともきっかけとなり、全校なわとびの活動もさらに充実させようとする機運も高まってきた。

そこで、毎月の児童集会等の機会に、「今年も、熊本地震で不安になっているみんなの心を元気にしよう。」「長嶺小のみんなで協力し合って、いっぱい遊んで楽しい気持ちをもとう。」と全校の子どもたちに呼びかけを行った。そして、次のようなテーマを掲げて活動することにした。

1 学期…「投げる力を高めよう」「走る力を伸ばそう」

2 学期…「逆上がりに挑戦しよう」「一輪車や竹馬に乗ろう」

3 学期…「なわとびをがんばろう」「熊本市わくわくチャレンジ長なわとびフェスタへ参加しよう」

4 活動の実際（本年度の取組から）

(1) なわとびフェスタ（平成30年11月～平成31年2月実施）

本校では、なわとびに親しみ、なわとびの様々な技に挑戦しながら巧緻性を身に付け、体力向上を図ることを目的に、毎年「なわとび月間」を行っている。今年度も昨年度に引き続き、全校で取り組んだ。その中の「なわとび名人チャレンジ」の取組では、なわとびカードを活用し、跳び方のレベルを向上させていくことに挑戦した。また、「なわフェス」では、課題の跳び方で一定時間跳び続けた人数で順位を競う方法で実施した。この取組では、全員参加を目指し学級の団結力を高めることにもつながった。

さらに、1月22日(火)～1月30日(水)の1週間は「長なわタイム」として、各学年毎に取り組んだ。各学級を2チームに分け、3分間跳びを2回行い、よい記録の合計回数を記録していくことにした。この期間の業間の時間は、「長なわフェス」として、各学年・学級の最高記録を目指してがんばった。その記録は、児童昇降口下足箱近くに掲示した。

購入した「大型デジタイマー」と「ストップウォッチ」を活用したことで、子どもたちが自分でタイムを確認しながら何度も挑戦する姿が見られるようになった。子どもたちのがんばりの結果は、今年度も「熊本市わくわくチャレンジ長なわとびフェスタ」に記録として報告する予定である。

(2) オリンピアン招聘（平成30年12月～平成31年2月実施）

昨年に引き続き、オリンピックを講師に「オリパラ教室」を実施した。昨年の「オリパラ教室」は全校一斉に実施したが、低学年と高学年では実態が違うので、低・中・高別に実施した方がよかったという反省を生かして、3回に分けて計画した。

第1回の12月3日(月)は低学年を対象に、第2回の2月15日(金)は高学年を対象に、そして第3回の2月26日(火)は中学年を対象に実施することができた。講師は、熊本出身で陸上競技のオリンピックである川上優子さんに依頼した。川上さんは、1996年アトランタと2000年シドニーの2つのオリンピックに連続出場された経歴をお持ちのオリンピックである。その経験をもとに、「失敗は成功の『秘訣』のもと」と題して、各学年の実態に応じて講話と実技指導をしていただいた。現在は、キャノン九州アスリートクラブの監督としても活躍中の川上さんから、「失敗から学ぶことが多いこと」「リズム・バランス・タイミングを意識して練習すること」を教えていただいた。子どもたちは川上さんから練習のポイントを教えていただき、自分の走り方を見直すきっかけとなった。



(3) パラアスリートの招聘（平成31年2月実施）

2月2日(土)、4・5年生を対象にした「オリパラ教室」を実施した。今回は、パラアスリートの中尾有沙さんをお招きして、ご自身の経験や東京パラリンピックに向けての夢について話していただいた。三段跳びのアスリートだった中尾さんが、3年前のトレーニング中の事故で、車椅子の生活になったこと、その現実を受け入れ、どんな状況でも「前を向いて努力すること」の素晴らしさを子どもたちに直接伝えていただいた。車椅子マラソンで乗車する「レーサー」も紹介していただき、子どもたちは、中尾さんの話に真剣に聞き入っていた。講話の後、子どもたちは「事故に遭ったときは、どんな気持ちでしたか。」「車椅子マラソンはたいへんですか。」と次々に質問しながら、中尾さんの生き方に感動していた。今の自分たちが健康で過ごせることに感謝するとともに、スポーツにかける中尾さんの情熱にもふれ元気になった子どもたちの姿が見られた。



5 考察

平成28年度からの3年間、「復興支援枠」での助成を受けて「運動遊び」に焦点を当てた特色ある教育活動が展開できた。学校教育目標「活力ある子どもを育てる」に向かって、運動やスポーツをすることが好きな子どもたちが増えてきた。また、自分の体力や運動能力に自信をもつ子どもたちも確実に増えてきている。助成金を活用して教育環境整備を行ったことで、熊本地震後に運動遊びが十分でなかった子どもたちが、今では休み時間ごとに夢中になって運動遊びに取り組むようになった。さらに、助成金を「オリパラ教室」の講師招聘に活用できたことで、各学年の実態に応じた内容で計画することができた。

今年の学校評価でも、地域の方々から「活力ある学校になっている」と評価していただいた。テーマである「地震による不安な心を運動遊びで吹き飛ばそう PartⅢ」のねらいは、達成に向かいつつあると思われる。3年間の助成の成果を生かし、今後も継続して本校の特色として「運動遊び」の充実に取り組んでいきたい。